

南アジアのジェンダーと結婚慣習

Missing women、結婚持参金、交換婚、児童婚

牧野 百恵

アジア経済研究所 地域研究センター南アジア研究グループ

December 12, 2016

- 1 イントロダクション
- 2 Missing Women
- 3 南北ジェンダー格差
- 4 ダウリーに関する議論: 理論と実証
- 5 交換婚 (Watta Satta)
- 6 児童婚
- 7 まとめ

イントロダクション

- 南アジアではジェンダー格差が顕著 ⇒ 性比 (女性人口に対する男性人口の割合) が不自然に高いこと (Missing Women) が最たる現象。
- Missing Women の要因は多様 ⇒ 貧困、男児選好 (Son preference)、低い女性の労働参加率、ダウリー (結婚持参金) など。
- ジェンダー格差はインド南北で差があり、それが結婚慣習と密接に結びついているという議論がある。実証はどうか？
- 南アジアで問題となっている結婚にまつわる慣習は経済学的な分析・実証の対象となってきた。なぜか？
 - ⇒ 南アジアでは結婚は合理的な経済的意思決定の結果であるとみなされている。
 - ⇒ 一見したところの「悪習」もしくはデメリットと合理的な意思決定とのトレードオフの分析。現行の意思決定は First Best ではないが、Second Best (与えられた条件下では Best) である可能性あり。
 - ⇒ 「悪習」といわれるものの例 ⇒ ダウリー、児童婚、交換婚 (Watta Satta) など。
 - ⇒ First Best を実現させるための政策提言など分析の意義が大きい。

Missing Women

- 南アジアで性比が不自然に高いことは Missing Women (Sen 1990) といわれる。 [▶ DEfig8.4](#)
- 直接的な原因: Sex-selective abortion (性選択的中絶)、Female infanticide (女児殺害)、女児ネグレクト (栄養水準や病気の治療などにおける性差別)
- 根本的な要因は様々に指摘されているが、コンセンサスなし。
 - ☞ 貧困 ⇒ 全体のパイが小さい場合、差別を受けやすいもの (この場合女児) に資源配分が届きにくい。ただし、サブサハラ・アフリカでは性比は不自然でない。
 - ☞ Son preference ⇒ 単なる選好か、投資収益率の差かは区別しにくい。(Behrman 1988)
 - ☞ 低い女性の労働参加率 ⇒ 親からみて女児への人的投資は収益率が小さい。女性の人的投資収益率を向上させると格差是正につながるとの実証研究あり (Rosenzweig and Schultz 1982; Basu and Basu 1991; Munshi and Rosenzweig 2006; Jensen 2012)。
 - ☞ ダウリー ⇒ インドでは、"Spend Rs 500, Save Rs 500,000" という産婦人科広告がある。が一方で、もともとダウリー慣習のなかった 19 世紀末の Punjab、Haryana、UP においても、性比は不自然に高かった。 [▶ map](#)

Son preference

- Son preference は高い出生率 (fertility) にもつながるとされている。
- 中絶や間引きなどの極端な手段をとらない場合、Son preference が存在する限り、親は理想とする男児の数が産まれるまで出産を繰り返す傾向にある。
- 実際、子供の数が多い家計では女兒の割合が高い。つまり、女兒は男児よりも多くの兄弟姉妹がいる可能性が高い。⇒ たとえ親がすべての子供を平等に扱ったとしても、全体のパイが同じであるなら (家族内でなく家族間でみた場合) 女兒への配分は必然的に少なくなりやすい。

Dyson and Moore 仮説

- Dyson and Moore 仮説 (1983): 結婚慣習の違いが南北ジェンダ－格差の要因である。
 - ⇒ 南北ジェンダ－格差 (性比, 出生率, その他社会経済指標)
 - ▶ [dyson83fig1](#)
 - ⇒ 結婚慣習: 北は上昇婚 (hypergamy) と異族婚 (exogamy)、南は同族婚 (endogamy) の慣習がある。
- 実証研究
 - ☞ 宗教や結婚慣習の違いでは説明できない地域差 (Jejeebhoy and Sathar 2001)。
 - ☞ Dyson and Moore 仮説を棄却 (Rahman and Rao 2004)

ダウリーの弊害とは？

- ダウリーは結婚市場で決定される価格であるとする説 (価格仮説) と、花嫁の親から花嫁への遺産の前払いであるとする説 (生前贈与仮説) がある。
- ダウリーの定義自体が両者では異なる。 [▶ dowry](#)
- ダウリーはインドのメディアなどでジェンダー格差 (Sex selective abortion や Female infanticide) の根源とみなされ、法律で禁止されている (例 : Dowry Prohibition Act of 1961)。が、実効性に欠ける。
- 「ダウリー殺人」もインドのメディアでしばしば取り上げられ、国内外で非難を浴びている。
☞ しかし、ダウリーが殺人の根本的要因かについてはコンセンサスがなく、「ダウリー殺人」という名称自体に異議あり (Kishwar 1989; Narayan 1997; Leslie 1998; Palriwala 2009)。

価格仮説

- Becker(1991)によると、結婚において利得を得るものが婚姻時に価格を支払う。
- 南アジアでは、女性が労働参加をせず家計に金銭的貢献ができないため、花嫁の親が花婿とその親に支払う価格 (娘を養ってもらうことに対する対価) であると理解しうる。(Boserup 2007; Anderson 2007a).
- 花嫁の価値が低く (もしくは花婿の価値が高く)、花嫁が結婚市場で供給過多であるとダウリー額は上昇。← 価格 (ダウリー額) は結婚市場における需要と供給の均衡で決まるから。
- "ダウリー・インフレーションの謎" は価格仮説を前提 (Rao 1993; Anderson 2007b; Arunachalam and Logan 2008)。

生前贈与仮説

- Becker(1991)によると、女性に財産権や相続権が認められない場合、婚姻時にダウリーが支払われる。
- 父方居住 (patrilocality) と女性の財産権がない (もしくは弱い) ことが前提。(Botticini and Siow 2003; Arunachalam and Logan 2016).
- 南アジアでは多くの地域で父系制 (patrilineality) と父方居住の慣習があり、女性の財産権は法律上はともかく実際には認められていないことが多い。
- 女性に相続権や財産権がない状況では、ダウリーは女性の唯一の財産であり、自身の生存を保障するものということもできるだろう。

価格か生前贈与か？

- 両仮説は互いに排他的ではない。
- ダウリーは歴史的には北インドにおけるヒンドゥー高カーストの慣習であり、生前贈与的な性格をもっていた (Tambiah 1973)。
- しかし、ダウリーはもともと結婚市場で決定される価格の性格も内包していた。例：北インドの高カーストにおける上昇婚の慣習。
- 近代化によって男性の稼得能力および機会が多様化したが、女性は比較的同質であるため、花嫁間の競争が激化。(Anderson 2003, 2007a). 文化人類学的/歴史的な研究は、過去数十年でダウリーの性格が従来の生前贈与から価格へと変化したと指摘。
- 農村では生前贈与的な性格が強く、稼得機会が多様な都市では価格的な性格が強い (Anderson 2004).

実証研究 (1)

- 実証研究に乏しく、コンセンサスがない。ダウリーが価格か生前贈与かまるで二者択一であるかのような問題設定自体が不適切かもしれない。
- Arunachalam and Logan (2016) は、両仮説が、ダウリーの是非に関して互いに排他的な結論につながるとする。
- これまでの実証研究は、どちらかの仮説を検証しようとしているのみで、一方を採択すれば他方を必然的に棄却するような検証をしていない。
- 価格仮説を検証する研究は、花嫁や花婿の属性によって、ダウリー額を説明しようとしている。(Behrman et al. 1999; Mbiti 2008; Behrman, Birdsall, and Deolalikar 1995; Deolalikar and Rao 1998)
- 生前贈与仮説を検証する研究は、ダウリー額によって、家庭内における女性の厚生水準を説明しようとしている。(Zhang and Chan 1999; Brown 2009). これらの研究はダウリーが家庭内における女性の厚生水準を向上させることを示し、生前贈与仮説をサポートする実証であるとしているが、必ずしも価格仮説を棄却するわけではない。
- 政策立案にとって有効な問題設定は、ダウリーが女性の厚生水準を引き上げるかどうか、ということである。

実証研究 (2)

- ダウリーが女性の厚生水準に与える効果についての実証は南アジアでは乏しい。最大の理由はデータに乏しいことであろう。
 - ➡ Zhang and Chan (1999) と Brown (2009) はそれぞれ台湾、中国のデータを使って、ダウリーが女性の厚生水準を向上させることを示した。
 - ➡ Jejeebhoy (2000) はダウリーが北インドにおいて、家庭内における女性の意思決定権を向上させることを示した。このような効果は南インドでは見られなかった。
 - ➡ Bloch and Rao (2002) と Srinivasan and Bedi (2007) は、いずれもインドの数村に限って、ダウリー額が多いと、DVを受ける可能性が低いことを示した。一方で Suran et al. (2004) はバングラデシュのデータを使って反対の結果を示した。
 - ➡ Makino (2015) は、パキスタン・パンジャーブ州において、ダウリーが家庭内における女性の地位向上につながることを示した。

交換婚 (Watta Satta) とは

- 交換婚 (Watta Satta) とは、パキスタン、アフガニスタンに見られる婚姻慣習で、英語への直訳はギヴアンドテイク。文字どおり、一対の家族間で女性 (男性) を交換する結婚のことを指す。
- 典型的な Watta Satta の例 [▶ watta satta](#)
- 両カップルが適齢期であれば合同結婚式とすることで費用節約できるなど、経済的なメリットあり。
- データによるが、農村では 20~50% が Watta Satta を実践。
- Watta Satta は、当事者に選択の自由がなく結婚が強制的であるとして、人権 NGO などからの非難の対象となっている。
- しかし、Makino(2015)によると、Watta Satta であろうとなかろうと女性が自身の結婚に関して選択する自由はほぼ皆無であり、Watta Satta そのものが悪いわけではないようだ。
- Watta Satta は女性の安全権が保障されないなかでは、Second Best であるとの実証研究あり (Jacoby and Mansuri 2010) ← Watta Satta であると、DV 被害や精神疾患の可能性が下がる。

児童婚の背景

- 1962 年国連条約は、子供の婚姻年齢を 15 歳以上、同 1979 年は 18 歳以上と提案。
- 現在ユニセフの定義によると、18 歳未満の婚姻が児童婚。
- 南アジアの女性は途上国のなかでも婚姻年齢が若い。 ▶ jensen03fig1A
- 南アジアでは、児童婚もしくは若年婚 (18 歳未満) の割合が 70% と途上国のなかでも最も高い。 ▶ jensen03fig1B

児童婚の弊害とは？

- 児童婚の弊害として、以下が指摘される (Jensen and Thornton 2003; Field and Ambrus 2008):
 - ☞ 教育機会の低下。教育はフォーマルな学校教育もインフォーマルな保健教育も含む。
 - ☞ 初産年齢の低下 ⇒ 多産、母体保健衛生の低下につながりやすい。
 - ☞ 家庭内において地位や意思決定権の低下、DVにつながりやすい。

児童婚の根本的背景: 供給サイド

- 根本的要因は結婚市場における供給・需要サイド双方にみることができる。
- 子育てにおけるコスト節約 (食料、衣類、教育や保健衛生など)。
☞ 状況によっては、女兒にとって出来るだけ早急に比較的余裕のある家計に嫁ぐことが最適な選択になりうる。
- 犯罪が多く治安の悪い地域では、親は娘を早くに嫁がせることが娘の安全を保障することになるかもしれない。
- 娘の貞操を守るという社会的制約が強いと、早く嫁がせたいかもしれない。
- ダウリー一額が少なくて済むかもしれない？

児童婚の根本的背景: 需要サイド

- 若い花嫁は出産可能期間が長い。
- 若い花嫁はコントロールしやすい。
- 若い花嫁はよく動き、家事能力も高いかもしれない。
- 若い花嫁は性交経験がない可能性が高いから、性病の可能性も低い。

児童婚を禁止する政策

- 児童婚の禁止と最低婚姻年齢を規定する法律の実効性は低いといわれる。なぜか？
 - ☞ 社会規範・慣習が根強く、現実に強制力が乏しい(例：年齢確認ができない)。
- 結婚市場における供給・需要サイド双方のインセンティブに働きかける政策が必要である。
- 女性の社会進出向上が初婚・初産年齢の上昇には有効かもしれない(Jensen 2012; Heath and Mobarak 2015)。

まとめ

- 南アジアのジェンダー格差は Missing Women に顕著だが、その背景にあるとされる諸要因そのものが女性差別的であるといわれている。
- インドにおけるジェンダー格差の南北差の原因を結婚制度にみようとする仮説 (Dyson-Moore 仮説) は有名だが、実証的根拠に乏しい。
- 一見したところ「悪習」といわれるダウリーや交換婚・児童婚にも合理的な存在理由がある。
- 女性の相続権などが実質的に保障されていない現状では、ダウリーは女性の厚生水準を引き上げる可能性がある。
- 政策議論になるダウリーの一律禁止は現状ではおそらく意味がない。
- 結婚における自由な意思決定という意味では、交換婚の禁止は意味がない。現状では、交換婚のメリットを否定できない。
- 児童婚についても、単に禁止してもダウリー同様実効性は低く、人々のインセンティブ (合理的な意思決定) に注意を払う必要がある。

References

- Anderson, Siwan. 2003. "Why Dowry Payments Declined with Modernization in Europe but Are Rising in India," *Journal of Political Economy* 111(2): 269–310.
- Anderson, Siwan. 2004. "Dowry and Property Rights" BREAD Working Paper, 80.
- Anderson, Siwan. 2007a. "The Economics of Dowry and Brideprice," *Journal of Economic Perspectives* 21(4): 151–174.
- Anderson, Siwan. 2007b. "Why the Marriage Squeeze Cannot Cause Dowry Inflation," *Journal of Economic Theory* 137: 140–152.
- Arunachalam, Raj, and Trevon Logan. 2016. "On the Heterogeneity of Dowry Motives," *Journal of Population Economics* 29(1): 135–166
- Arunachalam, Raj, and Trevon Logan. 2008. "Is There Dowry Inflation in South Asia?" NBER Working Papers, 13905.
- Basu, Alaka Malwade and Kaushik Basu. 1991. "Women's Economic Roles and Child Survival: The Case of India," *Health Transition Review* 1(1): 1–20.
- Becker, Gary S., 1991. *A Treatise on the Family*, Enl. Edition. Cambridge, MA: Harvard University Press.
- Behrman, Jere R. 1988. "Intrahousehold Allocation of Nutrients in Rural India: Are Boys Favored? Do Parents Exhibit Inequality Aversion?," *Oxford Economic Papers* 40(1): 32–54.
- Behrman, Jere R., Andrew D. Foster, Mark R. Rosenzweig, and Prem Vashishtha. 1999. "Women's Schooling, Home Teaching, and Economic Growth," *Journal of Political Economy* 107(4): 682–714.

References

- Behrman, Jere R., Nancy Birdsall, Anil Deolalikar. 1995. "Marriage Markets, Labor Markets, and Unobserved Human Capital: An Empirical Exploration for South-Central India," *Economic Development and Cultural Change* 43(3): 585–601.
- Bloch, Francis and Vijayendra Rao. 2002. "Terror as a Bargaining Instrument: A Case Study of Dowry Violence in Rural India," *American Economic Review* 92(4): 1029–1043.
- Boserup, Ester. 2007. *Women's Role in Economic Development*, London, UK: Earthscan.
- Botticini, Maristella, and Aloysius Siow. 2003. "Why Dowries?" *American Economic Review* 93(4): 1385–1398.
- Brown, Phillip H. 2009. "Dowry and Intrahousehold Bargaining: Evidence from China," *Journal of Human Resources* 44(1): 25–46.
- Deolalikar, Anil B., Vijayendra Rao. 1998. "The Demand for Dowries and Bride Characteristics in Marriage: Empirical Estimates of Rural South-Central India," in Maithreyi Krishnaraj, Ratna M. Sudarshan, and Abusaleh Shariff eds. *Gender, Populations and Development*, London, UK: Oxford University Press.
- Dyson, Tim and Mick Moore. 1983. "On Kinship Structure, Female Autonomy, and Demographic Behavior in India," *Population and Development Review* 9(1): 35–60.
- Field, Erica and Attila Ambrus. 2008. "Early Marriage, Age of Menarche, and Female Schooling Attainment in Bangladesh," *Journal of Political Economy* 116(5): 881–930.

References

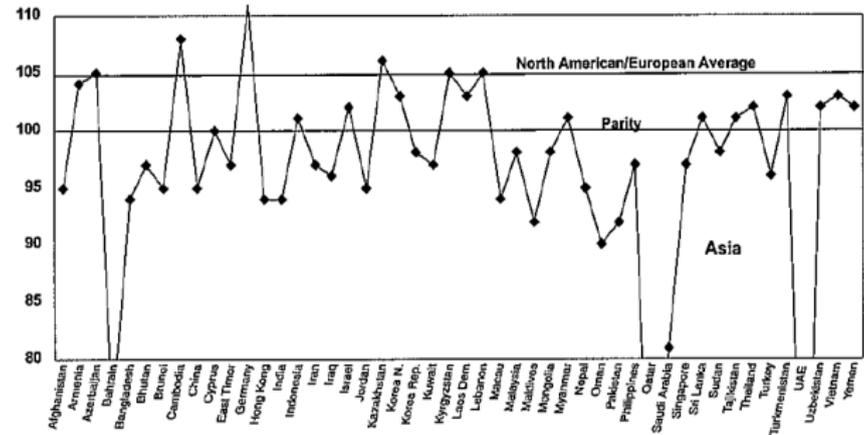
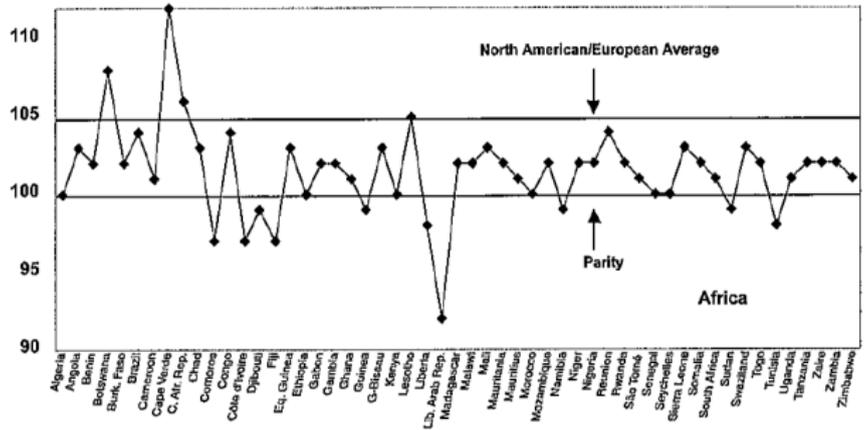
- Heath, Rachel, and Mobarak A. Mushfiq. 2015. "Manufacturing Growth and the Lives of Bangladesh Women," *Journal of Development Economics* 115: 1–15.
- Jacoby, Hanan, and Ghazala Mansuri. 2010. "Watta Satta: Bride Exchange and Women's Welfare in Rural Pakistan," *American Economic Review* 100(4): 1804–1825.
- Jejeebhoy, Shireen J. 2000. "Women's Autonomy: Dimensions and Context," in Harriet B. Presser, and Gita Sen eds. *Women's Empowerment and Demographic Processes*, New York, NY: Oxford University Press.
- Jejeebhoy, Shireen J. and Zeba A. Sathar. 2001. "Women's Autonomy in India and Pakistan: The Influence of Religion and Region," *Population and Development Review* 27(4): 687–712.
- Jensen, Robert. 2012. "Do Labor Market Opportunities Affect Young Women's Work and Family Decisions? Experimental Evidence from India," *Quarterly Journal of Economics* 127(2): 753–792.
- Jensen, Robert and Rebecca Thornton. 2003. "Early Female Marriage in the Developing World," *Gender and Development* 11(2): 9–19.
- Kishwar, Madhu. 1989. "Towards More Just Norms for Marriage: Continuing the Dowry Debate," *Manushi* 53: 2–9.
- Leslie, Julia. 1998. "Dowry, 'Dowry Deaths' and Violence against Women: A Journey of Discovery," in Werner Menski ed *South Asians and the Dowry Problem*, New Delhi: Vistaar Publications, pp. 21–35.
- Makino, Momoe. 2015. "Marriage, Dowry, and Women's Status in Rural Punjab, Pakistan," IDE Discussion Papers, 534.

References

- Mbiti, Isaac M. 2008. "Monsoon Wedding? The Effect of Female Labor Demand on Marriage Markets in India" Mimeo. Southern Methodist University.
- Munshi, Kaivan and Mark Rosenzweig. 2006. "Traditional Institutions Meet the Modern World: Caste, Gender, and Schooling Choice in a Globalizing Economy," *American Economic Review* 96(4): 1225–1252.
- Narayan, Uma. 1997. *Dislocating Cultures: Identities, Traditions, and Third World Feminism*, New York, NY: Routledge.
- Palriwala, Rajni. 2009. "The Spider's Web: Seeing Dowry, Fighting Dowry," in Tamsin Bradley, Emma Tomalin, and Mangala Subramaniam eds. *Dowry: Bridging the Gap between Theory and Practice*, New Delhi, India: Women Unlimited, pp. 144–76.
- Rahman, Lupin and Vijayendra Rao. 2004. "Gender Equity in India: Examining Dyson and Moore's Thesis with New Data," *Population and Development Review* 30(2): 239–268.
- Rao, Vijayendra. 1993. "The Rising Price of Husbands: A Hedonic Analysis of Dowry Increases in Rural India," *Journal of Political Economy* 101(4): 666–677.
- Rosenzweig, Mark R. and T. Paul Schultz. 1982. "Market Opportunities, Genetic Endowments, and Intrafamily Resource Distribution: Child Survival in Rural India," *American Economic Review* 72(4): 803–815.
- Sen, Amartya. 1990. "More than 100 Million Women are Missing," *New York Review of Books* 37(20): 61–66.
- Srinivasan, Sharada and Arjun S. Bedi. 2007. "Domestic Violence and Dowry: Evidence from a South Indian Village," *World Development* 35(5): 857–880.

References

- Suran, Luciana, Sajeda Amin, Lopita Huq, and Kobita Chowdury. 2004. "Does Dowry Improve Life for Brides? A Test of the Bequest Theory of Dowry in Rural Bangladesh," Policy Research Division Working Paper 195, Population Council.
- Tambiah, Stanley J. 1973. "Dowry and Bridewealth and the Property Rights of Women in South Asia," in Jack R. Goody and Stanley J. Tambiah eds. *Bridewealth and Dowry, Cambridge Papers in Social Anthropology, No.7*, Cambridge, MA: Cambridge University Press.
- Zhang, Junsen and William Chan. 1999. "Dowry and Wife's Welfare: A Theoretical and Empirical Analysis," *Journal of Political Economy* 107(4): 786–808.

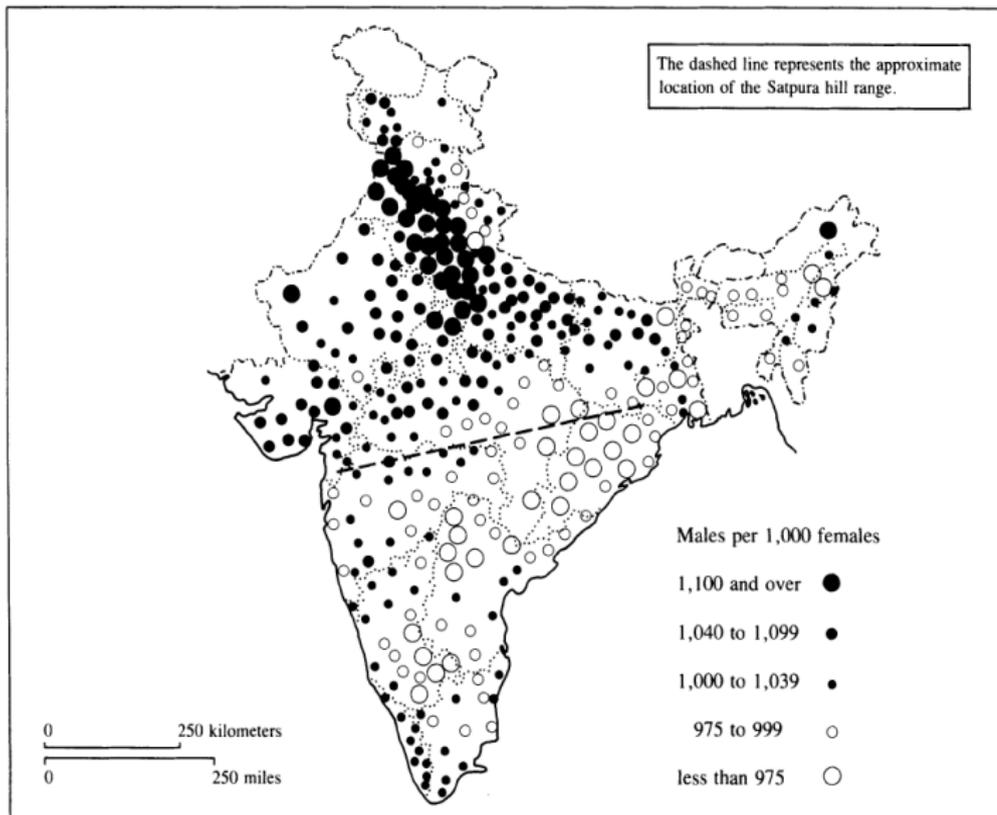


Source: Ray, Debraj. 1998. *Developing Economics*. Princeton, NJ: Princeton University Press.



Source: 『アジア動向年報 2016』

FIGURE 1 Sex ratios by district, for children aged 0–9, 1961



SOURCE: Derived from D.E. Sopher, cited in note 5, by permission of Cornell University Press.

Source: Dyson and Moore (1983)

FIGURE 2 Child/woman ratios, by administrative division, 1951

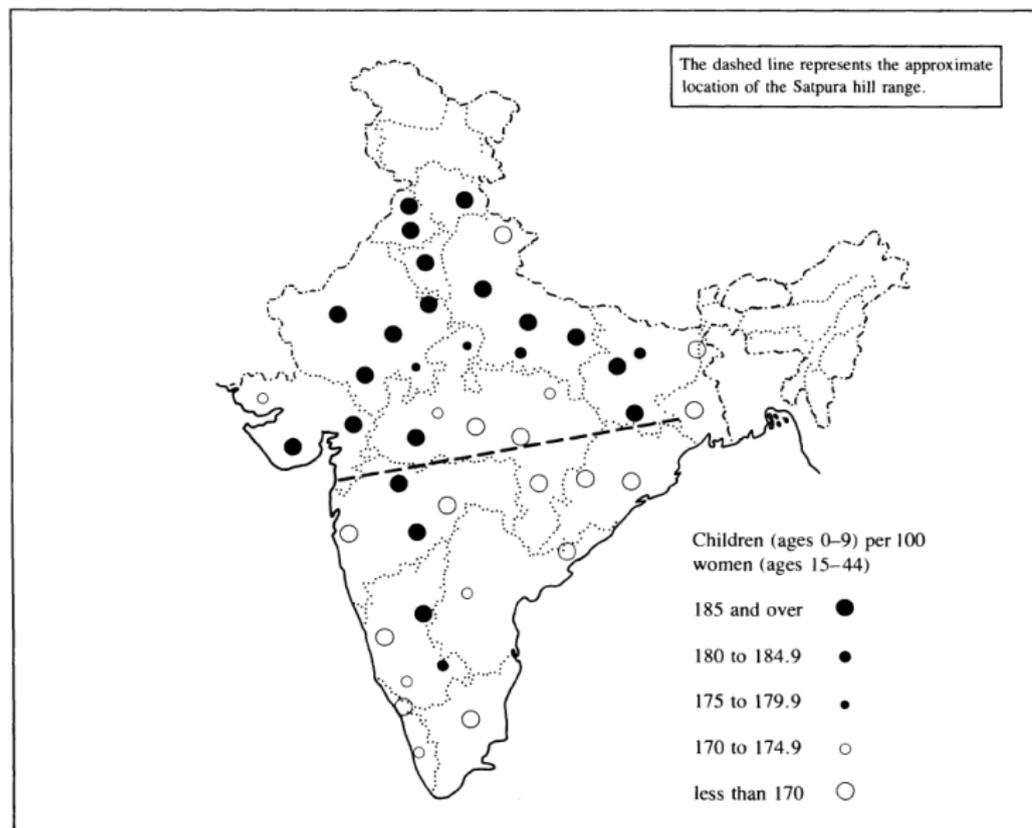


TABLE 4 State-level measures of infant and child mortality, 1968–71 (SRS) and 1958–60 (NSS)

Region/state	SRS infant and child mortality rates per 1,000 population (aged 0–4), 1968–71 ^a	NSS rural infant mortality rates (aged 0–1), 1958–59 ^b	NSS rural child mortality rates (aged 1–4), 1959–60 ^c	Ratio of male to female infant and child mortality rates, 1968–71 ^d
South				
Kerala	22.6	89	11.98	0.95
Tamil Nadu	46.6	119	15.60	0.95
Andhra Pradesh	43.9	112	14.95	0.90
Karnataka	42.2	103	26.96	0.93
Maharashtra	41.9	135	29.33	1.02
North				
Gujarat	67.5	134	24.55	1.10
Rajasthan	70.9	114	28.19	1.15
Uttar Pradesh	81.2	221	31.35	1.36
Madhya Pradesh	61.1	163	30.00	1.03
Punjab	35.6			1.38
Haryana	31.8	122	22.01	1.24
East				
Bihar	35.6	161	20.77	1.06
West Bengal	32.4	83	6.51	1.01
Orissa	57.8	154	16.99	0.87
All India	51.6	143	22.09	1.09

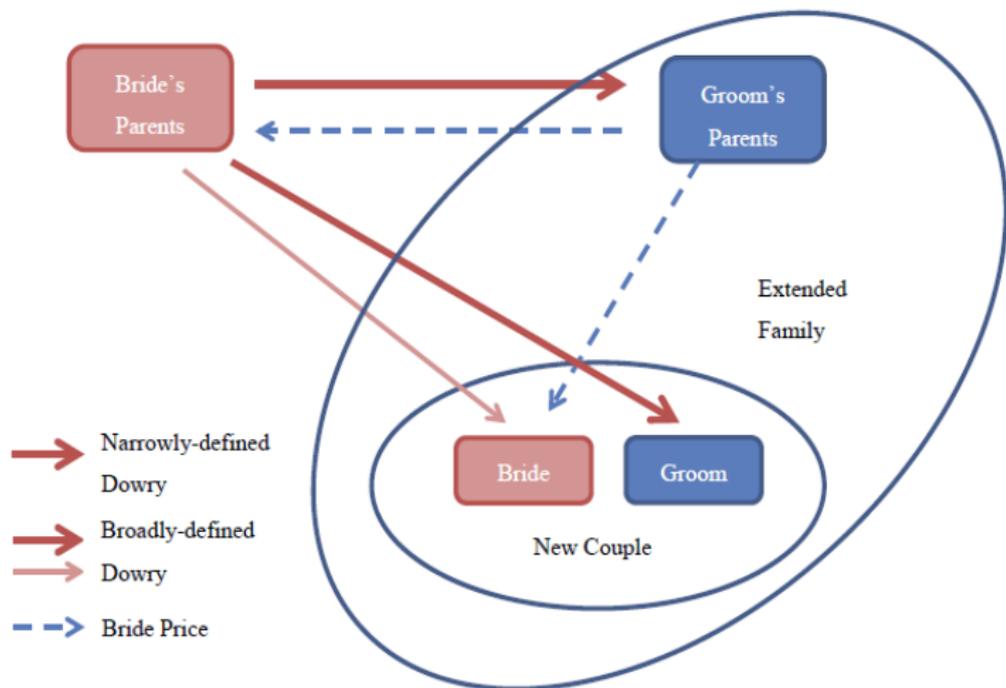
Source: Dyson and Moore (1983)

Note: The last column should be interpreted as ratio of female to male mortality rates.

TABLE 5 Selected state-level indexes related to women's status and acceptance of family planning

Region/state	Percent of couples protected by family planning ^a	Female labor force participation rate, 1971 ^b	Percent of women practicing purdah ^c	Percent of females literate, 1971 ^d	Percent of births medically attended ^e	Index of son preference ^f
South						
Kerala	28.8	13	4.3	54.3	25.7	17.2
Tamil Nadu	28.4	15	4.9	26.9	21.9	11.5
Andhra Pradesh	26.5	24	9.4	15.7	12.2	8.9
Karnataka	22.4	14	5.4	20.9	15.9	11.2
Maharashtra	34.7	20	16.7	26.4	7.5	18.4
North						
Gujarat	20.1	10	41.8	24.7	9.7	20.8
Rajasthan	13.0	8	62.2	8.5	4.1	n.a.
Uttar Pradesh	11.5	7	46.4	10.7	2.5	25.0
Madhya Pradesh	20.9	19	42.9	10.9	5.1	21.9
Punjab	25.0	1	44.6	25.9	11.3	31.3
Haryana	30.1	2	72.6	14.9	15.3	20.7
East						
Bihar	12.2	9	29.6	8.7	2.8	24.3
West Bengal	21.2	4	n.a.	22.4	n.a.	18.4
Orissa	24.4	7	27.7	13.9	6.8	15.7
All India	22.1	12	n.a.	18.7	n.a.	20.2

Source: Dyson and Moore (1983)

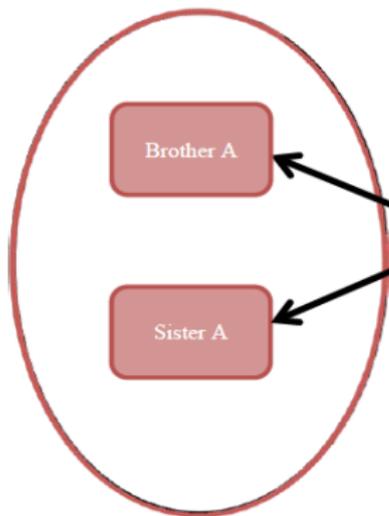


Source: 牧野作図

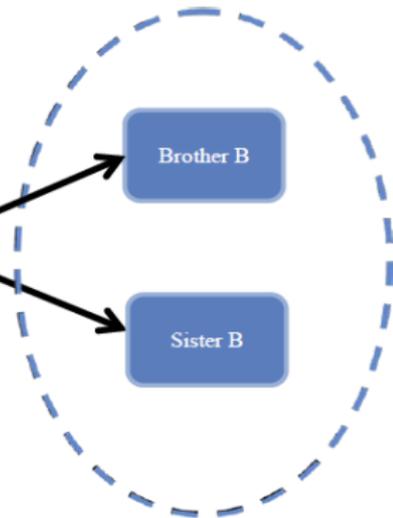
▶ go back

Typical Watta Satta Arrangement

Family A



Family B

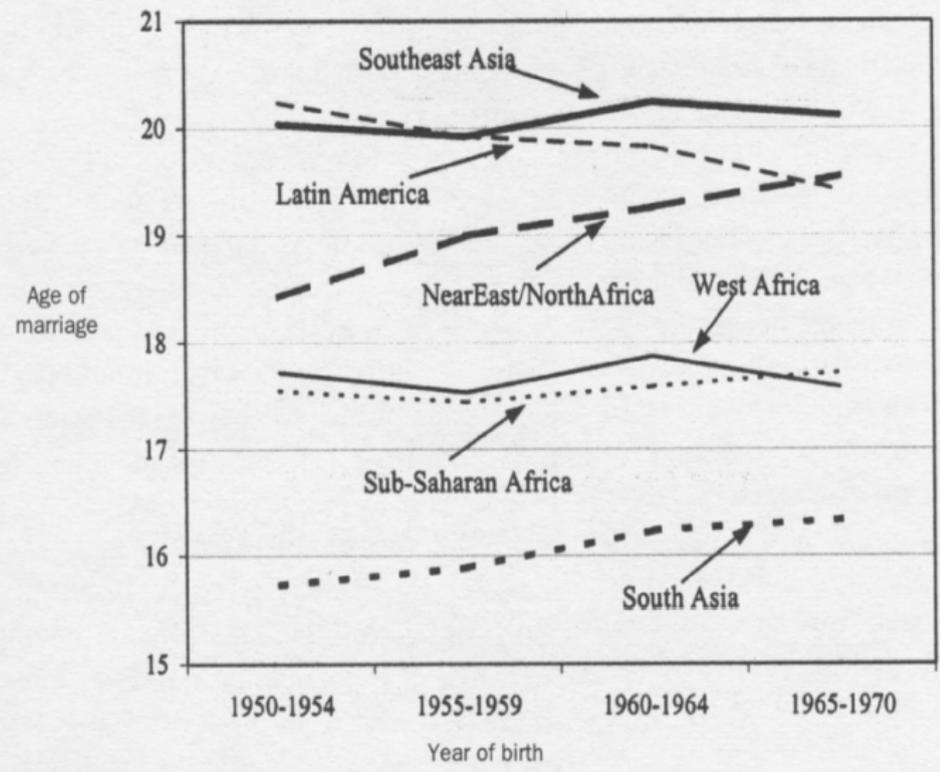


Brother A marries Sister B

Brother B marries Sister A

Source: 牧野作図

A Age at first marriage



Source: Jensen and Thornton (2003)

B Married 18 or younger

